

地域医療構想の実現に向けた具体的対応方針について

1 検証・見直しの方針

○ 「地域医療構想実現に向けた取組シート」の作成(具体的対応方針)について

県として、各医療機関における病床機能や 2025 年を見据えた今後の方向性(具体的対応方針)等について、取りまとめ、その内容等について、毎年、「岩手中部保健医療圏地域医療連携推進会議」の場において、内容を確認することとされている。

中部医療圏においては、各病院で策定された「地域医療構想実現に向けた取組シート」の内容の確認を行うこととしている。

2 今年度の取組

2023 年 9 月時点における各医療機関の病床機能や 2025 年を見据えた今後の方向性について検証した。

(1) 取組状況 (詳細は資料 2-2 のとおり)

① 病床利用率

平成 30 年度(2018 年)と比較して、12 病院のうち、9 病院で病床利用率は減少している。

② 病床機能

	2014 年 時点の病床数 【医療構想 策定時点】	2018 年 時点の病床数 (A)	2023 年 9 月 時点の病床数 (B) 【今回調査】※	2025 年 の必要病床数 (C)	5 年前と の差分 (B) - (A)	必要病床 数との差 分 (B) - (C)
高度急性期	270	50	50	135	0	▲85
急性期	861	1,008	788	438	▲220	350
回復期	188	302	386	555	84	▲169
慢性期	352	196	215	248	19	▲33
休棟中	(無回答) 29	195	48		▲147	48
計	1,700	1,751	1,487	1,376	▲264	111

※ 昨年度(1,481 床)と比較して、急性期は 19 床減、慢性期は 4 床減、休棟中は 29 床増であった。

③ 医療と介護の連携、在宅医療の充実に向けた取組

関係機関と連携した訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等の取組が進んでいる。

(2) 検証結果

2025 年の段階で不足している病床機能(回復期)が拡充されるなど、当圏域における将来の医療ニーズに沿った取組が展開されている。

3 今後の対応

地域医療連携推進会議の場において、次期医療計画等や国、県の方針に基づき、各医療機関において作成する具体的対応方針について、引き続き検証していく。

各病院の役割と特色(概要)

01 総合花巻病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な疾患に対応できる、地域医療に密着した多機能型地域病院 ・ 中・軽度の急性期医療から、ポストアキュートの機能、在宅医療のバックアップベッド機能など
02 宝陽病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性期病院からの症状が安定し治療継続が必要な患者の受け入れ対応 ・ 近隣施設からの利用者の入院対応 ・ 透析が必要な入院患者、通院患者の対応 ・ 土曜、日曜日の診療対応 ・ ワクチン接種と症状がある患者の抗原検査をの実施 ・ コロナ羅漢後の入院継続患者受け入れ
03 東和病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の地域病院として、基幹病院である中部病院と連携しながら地域の入院医療を実施 ・ 地域に密着した「かかりつけ」医療機関として軽症の入院患者受け入れ及び地域包括ケア病床への急性期医療後の回復期患者を受け入れ ・ 救急告示病院として旧東和町を中心に救急患者を年間1,600人程度(うち救急車搬送を310人程度)受け入れ ・ 在宅では評価しにくい異常、問題点を早期に発見するための検査や医療処置・管理を目的としたメディカルショートステイを実施 ・ 地域医療研修協力施設として、県立中部病院、県立中央病院及び国立国際医療研究センター等から研修医を受け入れ
04 イーハトーブ病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患に応じた、また機能回復へ向けたリハビリテーションを実施 ・ 一般病床50床と併設介護老人保健施設150床 ・ 回復期機能のほか、慢性期患者の受入れも実施
05 中部病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の基幹病院として、二次救急医療など、圏域の急性期医療、高度・専門医療、新興感染症への対応 ・ 地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアなど専門的ながん医療 ・ 地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、地域医療機関との共同診療、地域の医療従事者・地域住民に対する研修・教育 ・ 地域周産期母子医療センターとして、周産期に係る比較的高度な医療 ・ 地域災害拠点病院として、災害時の傷病者の受入れや地域医療機関への支援、DMATチームの派遣 ・ 臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設として、医療従事者の育成
06 北上済生会病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病床数は224床で、一般病棟114床、小児周産期病棟50床(NICU7床含む)、回復期リハビリテーション病棟44床、地域包括ケア病床16床。 ・ 令和2年11月に新病院に移転。回復期リハビリテーション病棟を44床から60床、人工透析器を19台から25台に増設。 ・ 令和5年5月に病床機能の再編を行い、回復期リハビリテーション病棟44床、地域包括ケア病床16床に転換した。 ・ 地域の医療・福祉関係機関との連携のもと地域住民のニーズに応え、より一層地域医療に貢献できる医療を目指す。
07 遠野病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠野地域における唯一の総合病院 ・ 地域の救急医療から在宅医療までを含む総合的な医療機能を担う。

各病院の役割と特色(概要)

08 さわうち 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつて「沢内方式」と呼ばれた保健・医療・福祉の包括体制を全国に先がけて実現 ・ 経緯を踏まえ、地域唯一の病院として本町の地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を果たしていくこととし、主に次の事項について重点的に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ア 町内医療機関との連携・役割分担 イ 介護福祉施設との連携 ウ 病床機能の充実強化(地域包括ケア病床の運用) エ 予防医療の推進
09 もとだて 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手中部圏域の精神科医療を担う病院 ・ 精神科急性期病棟(36床)、認知症治療病棟(48床)、精神療養病棟(60床)の包括病棟(計144床)と機能分化 ・ 精神科救急医療体制の協力病院として輪番に参加
10 国立花巻 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患医療を担い、精神科医療の急性期～慢性期及び医療観察法と多岐にわたる対応を実施 ・ 岩手県から精神科救急医療施設としての委託を受託 ・ 岩手県認知症疾患医療センターとして指定 ・ 重症心身障害児(者)医療においては、他施設で対応困難な「動く重心」の受入れ施設として政策医療を実施
11 花北病院	<p>(急性期、入院医療への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年8月より社会医療法人に移行 ・ 応急入院指定病院。 ・ (精神科)救急医療体制整備事業の輪番対応病院 ・ 病棟機能の内訳は <ul style="list-style-type: none"> ① 64床の精神科急性期、重症かつ慢性期対応病棟(1床室4室、4床室14室、保護室4室)。 ② 60床のストレスケアを中心としたストレス関連疾(うつ病、適応障害、思春期等)、および認知症疾患対応病棟(1床室10床、保護室2床、4床室12室)。 <p>(通院医療)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門外来(ストレス外来、物忘れ外来、頭痛外来)を設置 ・ ショートケア、デイケア、デイナイトケア、リワークデイケア、精神科訪問看護を実施 ・ 在宅医療の充実に向けた取り組みとしてグループホームを運営 ・ デイナイトケア、訪問看護の利用により地域で暮らせる体制を補完 ・ 認知症疾患には精神科医(認知症専門医)、神経内科医(認知症サポート医)が連携して治療を実施
12 遠野 はやちね ホスピタル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科医療を担う病院。 ・ 精神病床56床、認知症治療病棟60床、デイケア棟を整備。 ・ 共同生活援助(外部サービス利用型)グループホームの運営。 ・ 精神科救急医療体制(夜間)輪番対応病院。 ・ 患者の状況に応じ適切な医療の提供、関係機関との連携を図り、社会復帰や自立した生活への支援を実施。